

平成 22 年度 学校自己評価システムシート

(星野高等学校)

目指す学校像	114年間の永い伝統に培われたまじめな校風を基調として、豊かな教養、確かな学力とモラル、マナーを身につけた国際人を養成する。そのため心身ともに健全な人間、自ら個性や可能性を発見し、自分で自分を育てる人間作りを目指す。
重点目標	1.よくわかる授業や工夫された指導方法で学力向上を図り教科指導のいっそうの充実を目指す。 2.進路指導の充実を図り、志の実現に向けて、自らの道は自ら拓く、能動性を育てる。 3.部活動や学校行事を通して人間教育を行う。 4.本校生にふさわしい生活態度を確立させ、真面目な校風の大切さを広報する。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化に兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 (3 月 19 日 現 在)		
年 度 目 標					年 度 評 価 (3 月 19 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	3年間の授業指導計画の中で、1、2年次においては教科書を中心とした基礎学力の養成を図り、3年次は応用力の育成に努める。	授業改善の取組	<ul style="list-style-type: none"> よくわかる授業に徹するために、習熟度別学習指導の徹底。 英語教育に力点をおき、英検対策はカイダンスや機器を用いて指導を行う。 教員間の研究授業 	<ul style="list-style-type: none"> 外部模試における過年度及び他校比較 英語検定の合格率 宿題課題の提出度 	<ul style="list-style-type: none"> 1年次からセンター試験を意識した授業を展開しているため、模試から見られる学力の伸びは、学年が進むにつれ見られるようになった。 英語検定準1級3名、2級167名合格 模試で理解が充分でない分野を長期休みの課題として、全員に取り組みさせた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学力の高い生徒には多くの課題を与え、遅れた生徒には補習等を行い、全員を伸ばす教育を行う。 教員研修を増やし、自分の教科のみならず、他教科の取り組み方を知り、刺激を与えあう。
2	生徒が目指す現役合格を毎年95%以上実現させる。そのためには、適切な学習指導・進路指導を実践し、自学自習の精神を持たせ、家庭学習の習慣化を図る。	進路実現に向けての取組	<ul style="list-style-type: none"> 外部模試等を行い校内のみでなく全国レベルでの本校生徒の実力を客観的に把握する。また、センター同日模試を1、2年次にも受験させる。 1年次、高校での勉強の取り組み方の指導を行う。 夏期・冬期講習の充実 二者・三者面談を通して意識の向上を図る。 キャリア教育を行い将来を見据えた進路を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路実績 模試結果 センター同日模試の受験率 	<ul style="list-style-type: none"> 現役合格率97.1%・国公立大72名合格 大学の出張講義6校 夏期講習は、進路希望別の講座を数多く設け、生徒の志望・能力に合ったものを選択させ一人一人の学力を伸ばすことが出来た。 全国規模の模試を定期的に受験することで、生徒は自分の学力がどのくらいの位置にあるかを把握できた。偏差値としての評価のみならず、教科ごとにどの分野の理解が不足しているかを把握でき、受験までの学習計画に結びつけることが出来た。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 現役合格率を引き続き95%以上維持させる。 講習の講座内容の更なる精選。 受験した模試結果について、不得意分野を克服させる。 受験態勢を最後まで、粘り強く維持させるために、1年次から指導を行う。
3	楽しく充実した学校生活を送るために、部活動や学校行事を全員参加とし、一人ひとりが主体的に取り組むことができる指導を行う。	部活動・学校行事を通し個々の生徒が学校生活での目標をかかげることができたか。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の居場所づくりを図るため個々の生徒に目的意識を持たせるとともに、はっきりした目標設定をする。 修学旅行はイギリス・フランスに行き国際的視野を広める。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の成果 各行事の満足度(生徒アンケート) 	<ul style="list-style-type: none"> 全国大会出場クラブ 運動部2、文化部7 ソフトボール部 全国優勝 箏曲部 文化庁長官賞受賞 音楽部 全日本合唱コンクール銀賞 修学旅行アンケート 満足度98% 	A	<ul style="list-style-type: none"> 部活動と勉強を両立させるため、如何に時間を有効に使うことが出来るかが今後の課題である。 修学旅行実施に当たっては、引き続き、事前学習をきちんと行わせる。
	ボランティア活動を推進させる。	ボランティア活動を通じた意識の変革。	<ul style="list-style-type: none"> チャリティーバザーの企画 地域の清掃活動 	<ul style="list-style-type: none"> 活動実績 	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭にてチャリティーバザー実施 学校の脇に流れる赤間川の清掃活動を行い、自然環境を守る意識を高めた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会が中心となり、運営は部活動単位で行い、多くの方に協力を願う。 チャリティーコンサートの実施。
4	伝統に培われた本校生徒の高校生らしさや真面目な校風を継承発展させ、次代を担う人材の育成の大切さを広報する。	開かれた学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> 学校HPを活用した情報公開 中学生・保護者向け見学会や説明会の実施のPR活動。 地域社会・中学生・保護者に文化祭・体育祭の一般公開 生徒・教員における中学校訪問 	<ul style="list-style-type: none"> HPの迅速な更新 見学会・説明会における参加人数 文化祭の来客数 	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭の来客数は12,000人にのぼった。 見学会・説明会参加者は女子部・共学部共に減少してしまった。 HPの更新は迅速に行われた。 今年も皆勤率は高く42%を達成した。 生徒の中学校訪問は本校の真面目さを伝えられた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 説明会・見学会の参加者を増やすための工夫が必要である。 広報活動における広報媒体の検討。 HPの内容を充実させる。

学校関係者評価
実施日 平成 23年 3月 19日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> 勉強に遅れがある生徒への対応が手厚くなった。引き続き指導をお願いしたい。 補習や小テストの回数も増え、普段の授業を大切にしている様子がうかがえる。
<ul style="list-style-type: none"> 校内で大学説明会が多く行われ、1年次から参加できるのは受験に対する意識向上につながるのが良い。 夏期講習の講座の種類・グレードが豊富でそれぞれの生徒が進路に合わせて選択できるのが良い。
<ul style="list-style-type: none"> 部活動は非常に活発で学校全体に活気があり良い雰囲気である。 修学旅行で2カ国を訪問したことは、文化の違いを感じる事が出来るようになった。
<ul style="list-style-type: none"> 地域社会の一員としての意識を持つためにも、もっと活動の範囲・内容を広げていく必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> よき伝統を守っていく姿勢が見える。 学校の様子を保護者に配布物等でもっと情報提供して欲しかった。 学校の良さを多様な方法を使用して宣伝したらどうか。